

2024年度 活動報告



総務委員会報告

理事
委員長
副委員長
委員

豊田 明美
安保 孝幸
西川 昌輝
石川 晋吉
今井 教安
大竹 利幸
清水 健司
高石 雅之
中島 めぐみ
渡辺 真一

ポーラ化成工業株式会社
花王株式会社
東京大学
日本たばこ産業株式会社
株式会社コーセー
株式会社資生堂
日光ケミカルズ株式会社
株式会社マンドム
株式会社アルビオン
ライオン株式会社

2024年度活動報告

1. 社員総会・会員総会のとりまとめ
2. マンダム動物実験代替法国際研究助成への対応
3. 化粧品等の安全性確保を目的とした
NGRA(Next generation risk assessment)に関する
研究助成金への対応
4. 各賞（学会賞、功労賞、日化協LRI賞や優秀論文賞等）の対応
5. 理事会・学会事務局との対応
6. 理事会・委員長会議・社員総会・会員総会などの
運営および議事録作成
7. その他（HP修正や学会内規修正対応等）

2024年度 企画委員会活動報告

2024年11月29日 社員総会

	担当理事 委員長	山下 邦彦 池田 英史	大阪大学 マンダム	19名
学会シンポジウム 分科会	副委員長 委員 委員 委員 委員	飯島 一智 棟近 由記美 清川 順平 伊藤 達彦 福田 隆之	横浜国立大学 日本農薬 中外製薬 ILSI Japan ボゾリサーチセンター	5名
技術セミナー 分科会	副委員長 委員 委員 委員 委員 委員	成田 和人 清水 健司 中村 牧 水谷 多恵子 山口 宏之 逸見 敬弘	食品薬品安全センター-秦野研究所 日光ケミカルズ 小林製薬 CIEL 関東化学 マツモト交商	6名
講習会 分科会	副委員長 委員 委員 委員 委員 委員	西浦 英樹 西條 拓 畠中 内子 半田 由希 榎本 詢子 栗原 浩司	TOA ポーラ化成工業 ジャパン・ティッシュエンジニアリング 倉敷紡績 島津製作所 日本精化	6名

活動実績

(1) 学会シンポジウム分科会

➤ 第37回大会（宇都宮）企画委員会シンポジウム

「皮膚感作性評価の最前線」を企画：12/1 シンポジウム10として開催

シンポジウム 10

企画委員会主催シンポジウム「皮膚感作性評価の最前線」

12月1日（日）13:25～15:25／第1会場（大ホール西）

オーガナイザー：飯島 一智（横浜国立大学）

座長：飯島 一智（横浜国立大学）

山下 邦彦（大阪大学/株式会社ダイセル）

S10-1 皮膚感作性試験代替法の行政活用状況

足利 太可雄（国立医薬品食品衛生研究所）

S10-2 「EpiSensA：新規皮膚感作性試験代替法の開発と安全性評価への活用」

鈴木 将（花王株式会社）

S10-3 消費者向け製品に配合する混合物原料に対する皮膚感作リスク評価の活用と展望

西條 拓（ポーラ化成工業株式会社）

S10-4 農薬分野での皮膚感作性試験の現状と課題

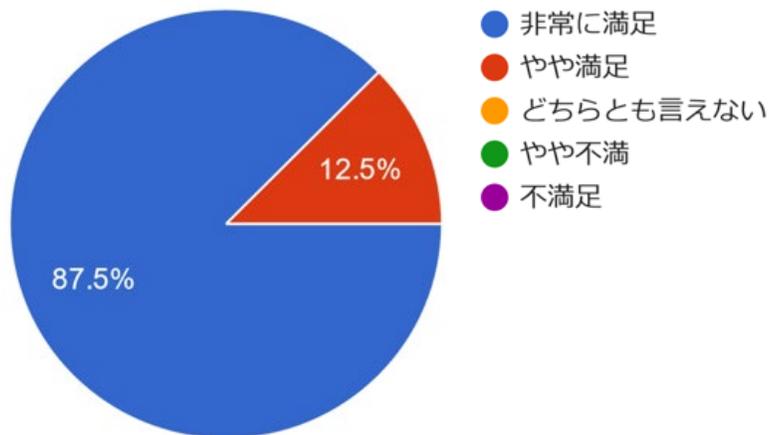
棟近 由紀美（日本農薬株式会社）

活動実績

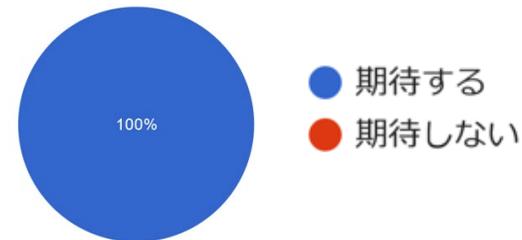
(2) 技術セミナー分科会

- In vitro経皮吸収 技術セミナーを開催（24.7.31, 8.1）
講師：藤堂 浩明先生（城西大学 教授）
場所：日光ケミカルズ株式会社 R&Dセンター中央研究所（東京都板橋区）
人数：27名（個人会員6名、賛助会員7名、非会員14名、個人会員入会2名）
- 次年度：EpiSensAで開催予定

セミナー全体を通じての満足度は？
24件の回答



今後このような技術セミナーを学会に期待されますか？
24件の回答



具体的な試験例

EpiSensA, h-CLAT等 皮膚感作性試験代替法

ROS assay等 In vitro光安全性試験

In silico安全性予測手法

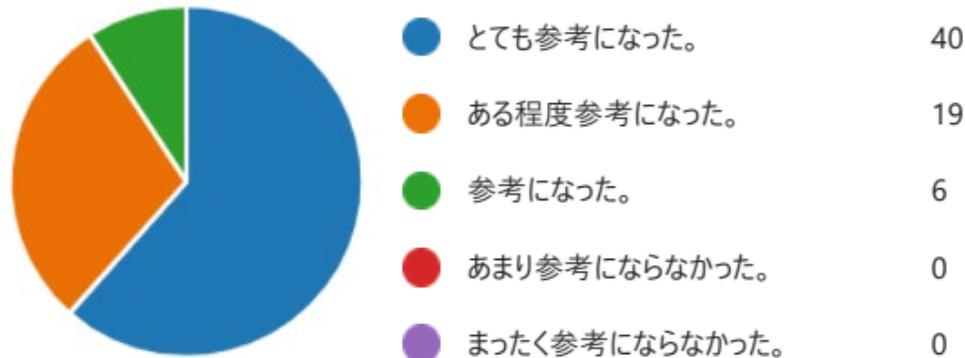
オルガノイド、無脊椎動物を用いる評価方法

活動実績

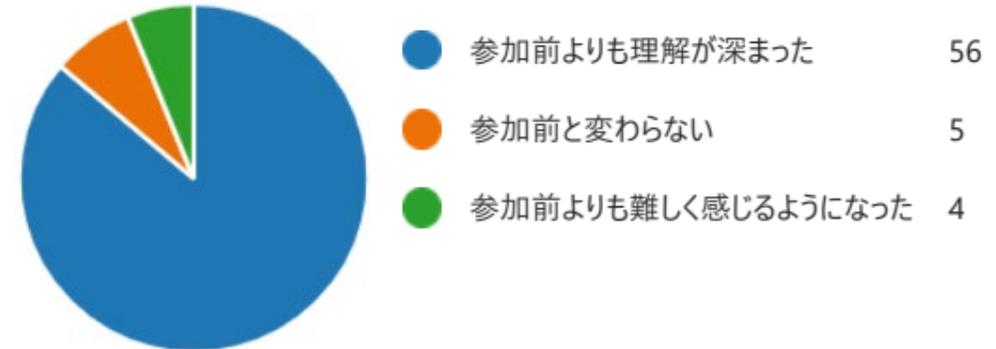
(3) 講習会分科会

- 「次世代の動物実験代替化を基礎から学ぶ -皮膚、眼、口腔、全身(NGRA)-」
日本化粧品工業会 NGRA WGとのジョイント開催（24.8.28 WEB開催）
人数：124名（個人会員・賛助会員82名、非会員42名）
- 次年度：25年7月頃開催予定

講習会は参考になりましたでしょうか？



NGRAに対する理解は進みましたか？



今後取り上げて欲しいテーマはありますか？

- ・NGRA、NAMs
- ・皮膚感作性（WoE、具体的な活用等）
- ・毎年、学びの場として継続して欲しい

2024年編集委員会

理事	石田	誠一	(崇城大学)
委員長	古水	雄志	(崇城大学)
副委員長	廣田	衛彦	(資生堂)
編集委員	松下	琢	(崇城大学)
	今井	弘一	(大阪歯科大)
	中澤	浩二	(北九州市立大学)
	飯島	一智	(横浜国立大学)
	木村	啓志	(東海大学)
	前田	和哉	(北里大学)
	尾形	信一	(横浜国立大学)
	奈良岡	準	(アステラス製薬株式会社)
	土屋	敏行	(Meiji Seikaファルマ株式会社)
	鈴木	真	(沖縄科学技術大学院大学)

2024年度活動報告

1. 2024年度発刊報告(2023年9月-2024年8月)

AATEX Vol.28(2023), No.1 (Sep.),とNo.2 (Jan.)の発行を行った。
第36回大会Supplementの発行を行った。

(2024年9月～)

AATEX Vol.29, No.1 準備中 (J-stage2024年12月末予定)

AATEX-JACVAM Vol.12 No.1 準備中 (2024年12月末予定)

2. 学会誌の活性化に向けた活動報告

編集委員会で策定した「AATEX活性化案」に沿って、以下の項目を行動目標として活動している。

- 1) PMC収載関係の対応として、投稿規定の改訂、査読ガイドライン、倫理規定の改訂審議を進めている。2025年度中に投稿規定のHP公表を目指す。引き続き、PMC収載に関する準備を進める。
- 2) AATEXの充実と投稿数を増やすために、今後さらに、会員の皆さんから積極的な投稿をお願いします。

3. 2023年 AATEX優秀論文賞 (2024年選定)

2023年AATEX 優秀論文賞(2024年選定)

受賞者：扇谷 昌宏 (旭川医科大学 医学部 解剖学講座 機能形態学分野)

共著者：古部 瑛莉子、田中 佑典、吉田 成孝

論文タイトル：Neurotoxicity Assessment System for Metals Using Mixed Cultures of Neural and Glial Cell Lines

優秀論文賞選考関係 (補足資料)

評価の集計（委員長）と審査員12名は、全員がCOI確認書を提出。今回、利益相反者の該当者はいなかった。

今期は候補が2論文であったが、査読を経て掲載された論文であるため、編集委員会としては、2候補でも論文賞を審査する方針となった。(論文活性化のためにも)

広報委員会報告

役職	氏名	所属
理事	古川 克子	東京科学大学
委員長	西川 昌輝	東京大学
副委員長 HPグループリーダー	堀口 一樹	大阪大学
幹事	Hyunjin Choi	東京大学

役職	氏名	所属
	石塚 典子	静岡県立短期大学
	岡田 真幸	テルモ株式会社
	加藤 義直	日本メナード化粧品株式会社
渉外グループリーダー	北村 浩	酪農学園大学
	小林 太郎	池田理科
	小林 諒太	住友化学株式会社
	篠原 満利恵	東京大学
	Seo Jieun	横浜国立大学
	曾原 喜一郎	ロート製薬株式会社
	花田 三四郎	群馬パース大学
	樋下 万純	一般財団法人 化学物質評価研究機構
NLグループリーダー	保坂 卓臣	静岡県立大
	西口 翔悟	株式会社メニコン
MNグループリーダー	渡邊（徳永）彩乃	関東化学

2024年度活動報告

1. ホームページの更新及びリニューアル対応

- 前年度から引継いだリニューアル作業を完遂し、2024年4月より新HPへ移行した
- 掲載情報やサイトツリーの整理、更新を行った
- HP更新依頼スキームの見直しと整理を行った
- 新年度へ向けた管理業者の再選定とコストダウンを行った

2. メールニュースの発信

- 新HPへの移行と連動し、アドレス管理や配信スキームの見直しと整理を行った
- 迅速な情報提供：2024年度は44件を発信（2023年9月～2024年8月末）
 - 学会支援機構経由（2023年9月～2024年3月）：10件
 - CTU経由（2024年4月～2024年8月末）：34件
- 海外関連団体情報を約1～2回/月の頻度で16件を配信

2024年度活動報告

3. ニュースレターの発行

- 2024年度は2通（No. 74、75）^{1), 2)}を発行した。
- 2025年度分としてNo.76は、2024年11月に発行済みである。

- 1) No. 74: 日本動物実験代替法学会第36回大会の案内(2), WC12(国際動物実験代替法学会第12回大会)参加報告, 韓国動物実験代替法学会(KSAAE)発表報告, 第16回マンダム動物実験代替法国際研究助成助成金交付者決定報告, 動物実験代替法チャレンジコンテスト2023開催報告, 企画委員会主催講習会開催, 宮崎博之先生の思い出 – 希望を大切にしてい – , 宮崎先生と歩んだ学会活動・法人化
- 2) 日本動物実験代替法学会第36回大会を終えて, 日本動物実験代替法学会第37回大会のご案内, 2023年度会計報告, 2024年度予算報告, HESI-NC3Rs ジョイントNAM会議の参加報告, 動物実験代替法チャレンジコンテスト2024(告知), 企画委員会活動紹介, 学会賞(Replacement)を受賞して, リレーエッセイ: 日本動物実験代替法学会と私

4. 渉外活動

- 外部団体との意見交換を定期的に行った
- 東京大学大学院工学系研究科の講義“再生医工学”において、関連する勉強会を開催した（講師：板垣宏理事長）

HPの更新にご尽力いただいた総務委員会や財務委員会をはじめとした各委員会の皆様に心よりお礼申し上げます。

2024年度 国際交流委員会報告

国際交流委員

担当理事：酒井康行

委員長：畑尾正人

副委員長：佐久間めぐみ

委員：石川晋吉

上野祥太

尾上誠良

関根秀一

武吉正博

堀 武志

三竹博道

安彦行人

山田隆志

Johan Lauwereyns

国際対応

1. 国際交流委員会Purposeの再定義

近年の国際的な動向を踏まえ、以下を国際交流委員会のPurposeとすることとした。

「動物実験代替法の普及を目指した交流活動を通じ、JSAAEの国際的なプレゼンスを高める。」

2. 3Rsを念頭に、欧米アジアとの交流を継続

- ・海外の関連学会に参加し、交流を行った。（TATT:酒井理事、堀委員、ESTIV:諫田副理事長、KSAAE:安彦先生、EUSAAT:西川先生、Lauwereyns先生、IFSQ:小島理事）

- ・ASCCT-ESTIVとJSAAEが初めて共同でウェビナーを開催し、西川先生が講演した。

- ・ESTIV 2024にてJSAAE賞の選定と授与を行った。<https://www.estiv.org/estiv-2024-awards-and-bursaries/>

- ・The 13th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (WC13)の国際科学委員会にて酒井理事がAsian Federation設立関連のセッションやキーノートを提案した。

- ・Asian Federation設立および関連国際学会の日本開催を想定して、JSAAEの定款および定款施行細則を改訂提案した。

国際対応

3. Asian Federation

- ・アジアにおける動物実験代替法の普及促進のため、委員長を中心にKSAAE, SAAE-Iと連携し、2024年12月にインドで開催される第4回アジア動物実験代替法学会(Asian Congress)でのAsian Federationの調印式開催の合意に至った。
- ・酒井理事がAsian Federationへの中国参加に向けて訪中し、継続交渉を行った。
- ・Asian Federation設立準備のため、銀行口座開設、HP開設、ロゴの準備などを行った。

4. 第37回大会国際交流シンポジウムを企画・準備

- ・第37回大会における国際シンポジウムのタイトルを「Current International Trend of Next Generation Risk Assessment (NGRA)」と定め、演者を選んだ。

座長：畑尾 正人, 諫田 泰成

講演者：Clive Roper (European Society of Toxicology In Vitro (ESTIV))

Eric Vaillancourt (Health Canada)

Donna Macmillan (International Collaboration on Cosmetics Safety (ICCS))

Haixia Sui (China National Center for Food Safety Risk Assessment (CFSA))

Ha Ryong Kim (Korea University)

- ・第37回大会にて、会費制のJSAAE International mixerを企画 (大会1日目夜)

会員サービス

5. 会員への国際情報発信を強化

国際情報を積極的に収集し、メールニュースで海外関連団体情報を14回発行した。(110～123)

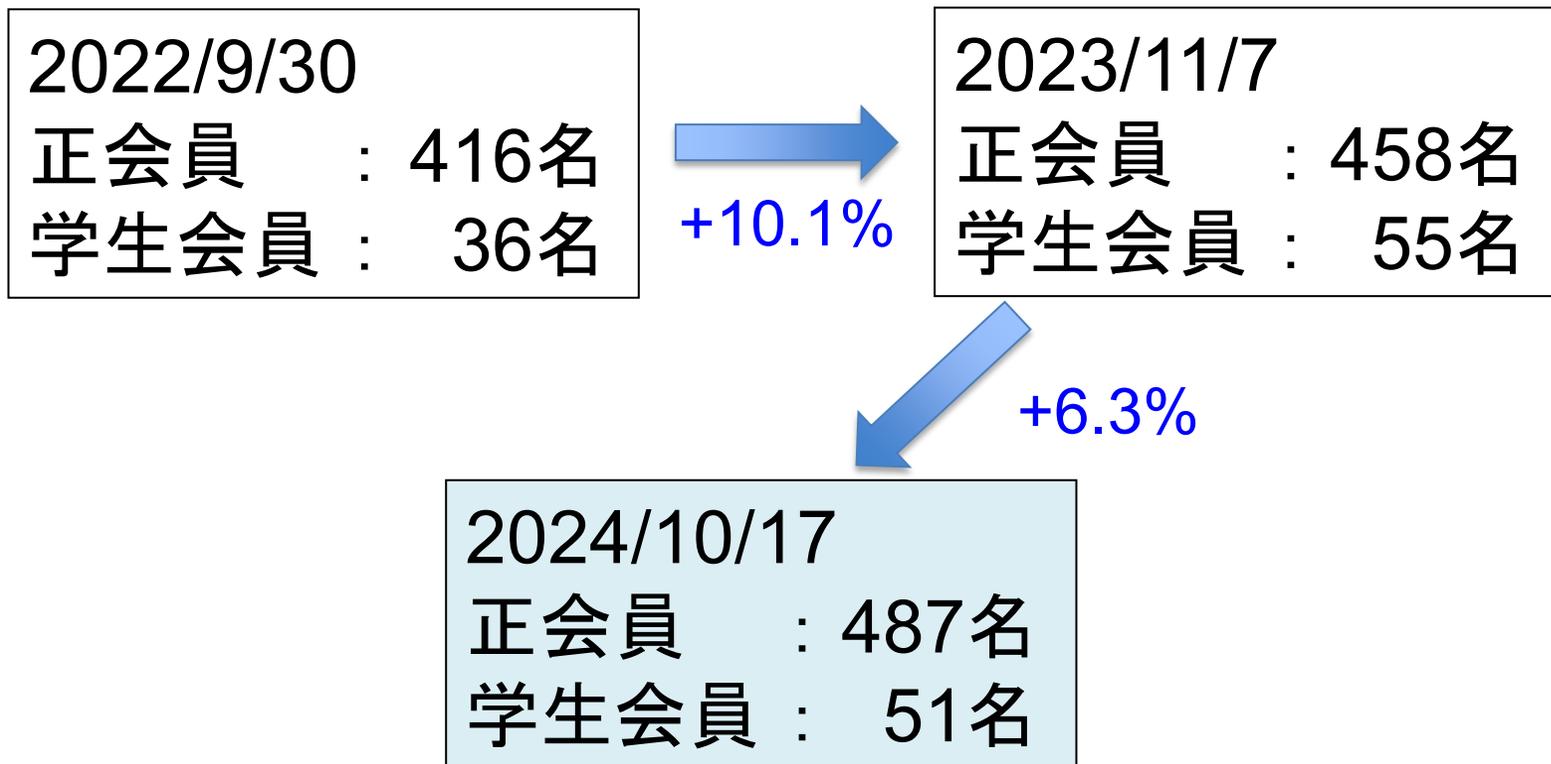
6. 第4回Asian Congressへのトラベルアワード

インドで開催される第4回Asian Congress参加に対する支援としてトラベルアワードを募集し、1名を受賞者とした。

会計・財務委員会 2024年度活動報告

担当理事	笠原 利彦	(富士フイルム株式会社)
委員長	梅下 和彦	(サンスター株式会社)
副委員長	竹内 和也	(日産化学株式会社)
委員	有田 裕子	(ピアス株式会社)
	小野 敦	(岡山大学)
	中村 牧	(小林製薬株式会社)
	萩野 滋延	(株式会社資生堂)
	波多野 浩太	(ホーユー株式会社)
	三田地 隆史	(株式会社ダイセル)
	三橋 舞子	(オリンパスメディカルシステムズ株式会社)
	本山 順子	(ライオン株式会社)

1. 正会員数の推移



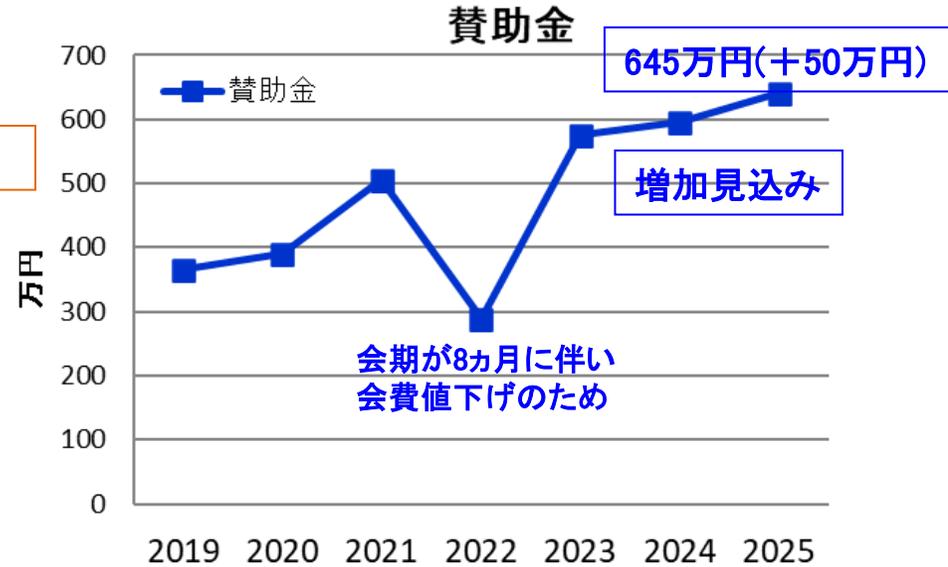
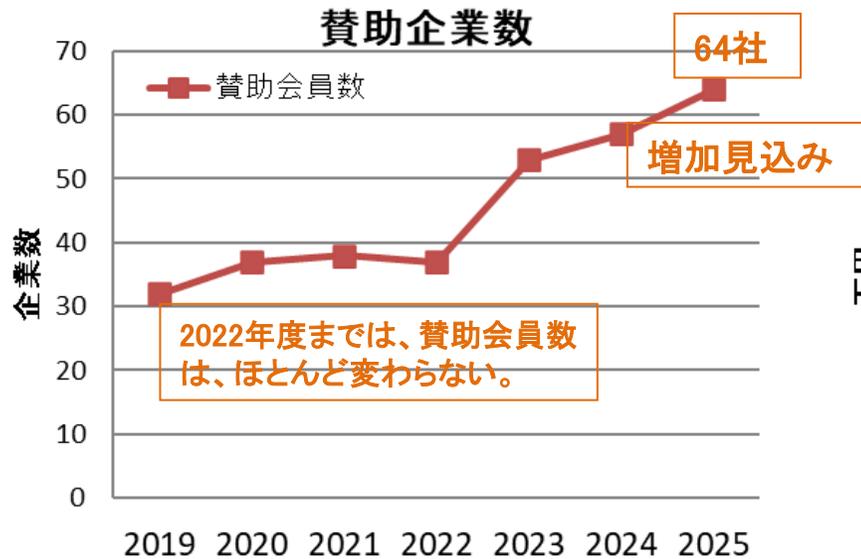
前年度と比較して、6.3%増加
(前年度と集計の時期が違いため、参考まで)

年会費収入は、450名で予算立て

2. 賛助会員の推移

■ 2024年度の賛助会員数：57社/団体 → 2025年度：64社/団体

Total 595万円	24年度	■ プラチナ	：2社(±0社) 5口(±0口)	→	±0社 ⇒ 2社、5口(予定)	25年度 Total 645万円 (+50万円)
	■ ゴールド	：14社(±0)	→	+2社 ⇒ 16社(予定)		
	■ シルバー	：41社(+4)	→	+5社 ⇒ 46社(予定)		



*: 2024年10月17日時点

■ 勧誘活動

以前から当学会の年大会に参加して頂いた企業または団体に、メール、電話およびWeb会議でお声がけをさせていただきました。

賛助会員の企業様にご協力に感謝いたします。

3. 未納者数 (2024年10月17日時点)

- 1) 未納者に対しては、メールおよび電話で会費納入を催促し、3ヶ月経っても納入がない場合は、さらにメール等で会費の納入を促した。
- 2) 会費納入を促進するために、コンビニでも納金可能なSMBCの振り込み方式を、2022年から導入した。

■ 未納者 2023年11月:17名 → 2024年10月:5名 **12名減**

	2023年11月	2024年10月	回収率
・2021年より滞納	1名	⇒ 0名 (1名納金)	100%
・2022年より滞納	6名	⇒ 3名 (3名納金)	50%
・2023年より滞納	10名	⇒ 2名 (8名納金)	80%

■ お願い

- ✓ SMBC用紙によるお振込の他、クレジットカード決済も可能です。
- ✓ ご所属等、ご本人様以外のお名前でのお振込及び、SMBC振替払込取扱票を使用せずにお振込いただく場合は、メールまたはファックスで**学会事務局宛**ご連絡ください。
- ✓ 個人の費用を、会社が入金する場合は、誰の費用なのか分からないため、メールまたはファックスで**学会事務局宛**ご連絡ください。

学術委員会報告

理事	小島 肇	国立医薬品食品衛生研究所
委員長	福田 淳二	横浜国立大学
副委員長	杉浦 慎治	産業技術総合研究所
副委員長	藤堂 浩明	城西大学
委員	寒水 孝司	東京理科大学
	河野 まおり	マンダム
	尾上 誠良	静岡県立大学
	前田 和哉	北里大学
	高橋 裕樹	ILSI Japan
	関根 秀一	資生堂
	佐藤 あやの	岡山大学
	鈴木 真	沖縄科学技術大学

2024年度活動報告

- 1) マンダム研究助成金の審査
- 2) 学会賞の審査
- 3) 日化協LRI賞の審査
- 4) 化粧品等の安全性確保を目的としたNGRA (Next generation risk assessment) に関する研究助成金の公募要領の修正と審査
- 5) 日本学術振興会 有志賞受賞候補者の推薦に関する審議
- 6) 学会賞の在り方に関する議論
→グループ研究の取り扱いや委員の受賞に関して議論中。
- 7) 第37回大会の表彰実施要綱と実施方法について議論し、大会準備
→ポスター賞の投票システム、実施要領の修正など
- 8) 国内の関連学会や関係機関との渉外 (Cheminasとの共催シンポジウムなど)

3Rs啓発委員会

活動メンバー

担当理事	吉成 浩一	静岡県立大学
委員長	梨本 裕司	東京科学大学
副委員長	堀口 一樹	大阪大学
委員	菅野 佑介	東京科学大学
委員	河野 まおり	株式会社マンダム
委員	小林 太郎	株式会社池田理化
委員	高島 宏昌	株式会社ボゾリサーチセンター
委員	中川 翔太	花王株式会社
委員	福元 健志	三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社
委員	藤本 和也	京都大学
委員	松井 等	横河電機株式会社
委員	三竹 博道	株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング
委員	山口 愛	関東化学株式会社
委員	湯浅 敦子	富士フイルム株式会社
委員	吉澤 美沙	ポーラ化成工業株式会社
委員	渡邊(徳永)彩乃	関東化学株式会社

(担当理事1名、委員15名)

3Rs啓発委員会 2024年度 活動報告

動物実験代替法チャレンジコンテスト

昨年度に引き続き、高校生、中学生を対象とした、動物実験代替法のアイデアを募るコンテストを実施。13校から8作品の応募を得た。

- ・書類審査(7月下旬) 8作品 → 6作品
- ・プレゼンテーションによる最終審査会(8月中旬)
- ・最優秀賞 受賞校の年会招待(本会)

出前講義

動物実験代替法を中心とした講義を、高校生、大学生に実施した。今年度、出前授業の検索サイト（出前授業どっどこむ）経由で多くの依頼を得た。

出前講義実施校

崇城大学（熊本県）、星稜高等学校（静岡県）、星槎国際札幌北（北海道）、都立第五商業高校（東京都）、千葉大学（千葉県）、チャレンジコンテスト参加校

企業座談会

企業を対象に、3Rsへの取り組み、本学会に向けた希望などをヒアリングした。本年度は、エリクサジェン・サイエンティフィック・ジャパン株式会社さまへヒアリングを実施した。学会のニューズレターで掲載予定である。

SDGsワーキンググループ_2024年度活動報告

2024年2月6日 キックオフミーティング

各チームメンバー及びチームリーダーを決定し、今後の活動方針を確認した

- シニア会員制度チーム
- 企業とアカデミアの連携強化チーム
- 化粧品セーフティアセッサー（SA）教育プログラムチーム

No	氏名	所属	シニア会員制度	企業とアカデミアの連携強化	SA教育プログラム
1	理事	古川 克子	東京科学大学（東京工業大学）	○	
2	委員長	古屋 律子	エル・シー・エス（株）		●リーダー
3	副委員長	小島 伸彦	横浜市立大学	●リーダー	
4	新委員	足利 太可雄	国立医薬品食品衛生研究所	○	○
5	新委員	古水 雄志	崇城大学	○	
6	委員	坂口 斉	花王（株）	○	○
7	委員	篠原 満利恵	東京大学	●リーダー	
8	新委員	成田 和人	一財）食品薬品安全センター秦野研究所	○	○
9	新委員	廣田 衛彦	（株）資生堂	○	○
10	新委員	福元 健志	三井化学クロップ&ライフソリューション（株）	○	
11	委員	Montagne Kevin	東京大学	○	
12	理事長	板垣 宏	ITACSコンサルティング	○	○

2024年度活動報告

■ シニア会員制度チーム

- ・ 2023年度の議論を踏まえた情報共有
- ・ シニア会員の会員要件、定款、定款施行細則変更案に関する打ち合わせ
- ・ 8月理事会において、定款、定款施行細則変更案に関するアンケート実施を提案
- ・ 8月末にアンケート実施（メールニュース配信）
- ・ 10月の理事会において、アンケート結果報告と内規・定款の改正を提案 →承認
- ・ 総会にて審議

目的

- ・ 知識や経験の伝承、継承 → 学会の設立背景や歴史、関連する学術背景などの知の共有
- ・ 会員数減少の抑止 → 超高齢社会での学会の活性化

2024年度活動報告

■ 企業とアカデミアの連携強化チーム

- ・ 2024年3月5日にミーティングを開催し、第37回学術大会にてシンポジウム開催を決定

シンポジウム6 「社会人ドクターの魅力と現実」 11月30日（土）9:00～11:00／第3会場

（11:00～個別相談会／ポスター・商業展示会場）

オーガナイザー：古川 克子（東京科学大学（東京工業大学））

座長： 古川 克子（東京科学大学（東京工業大学））・古屋 律子（エル・シー・エス（株））

パネルディスカッションモデレーター： 小島 伸彦（横浜市立大学）

演者： 板垣 宏（ITACS コンサルティング）

坂口 斉（花王（株））

福元 健志（三井化学クロップ&ライフソリューション（株））

パネリスト： 石川 晋吉（日本たばこ産業（株））

久木 友花（（株）資生堂）

豊田 明美（ポーラ化成工業（株））

山下 邦彦（大阪大学/（株）ダイセル）

演者：登壇順

パネリスト：五十音順

2024年度活動報告

■ 化粧品セーフティアセッサー（SA・安全性評価者）教育プログラムチーム

- ・ 日本化粧品学会及び日本化粧品工業会と協力し、教育プログラムを監修
- ・ IKW（ドイツ化粧品・トイレタリー・香水・洗剤協会）が提供しているSA教育プログラム活用につき、意見を集約し日本化粧品学会運営チーム会議にて報告
- ・ “JCSS/DGK Safety Assessor” の合意に向けサポート
 - *JCSS(Japanese Cosmetic Science Society 日本化粧品学会)
 - *DGK(German Society for Scientific and Applied Cosmetics ドイツ科学・応用化粧品学会)
- ・ 9月19日に活動概要を厚生労働省及び医薬品医療機器総合機構へ説明

